



やしお市議会だより

東埼玉資源環境組合第二工場解体工事の進捗状況について

Q 昨年8月から行われている解体工事中、二度の火災事故が発生しました。こうした事態は、地元説明会等において、工事を安全に進めるとい

て、工事を安全に進めるとい説明に反するものであり、地元住民の信頼を裏切るものであります。火災の原因の究明及び、今後このようなことがないよう

にするための安全対策はどうお考えですか。

宇田川 幸夫

訓といたしまして、①工場の可燃物を完全に場外に搬出してから作業を行う。②工事現場の粉塵等の防止を十分に行うとともに、散水等を十分に行い飛散防止に努める。③新たな施工体制で今後の工事を行う。④安全管理体制を強化する。⑤危険予知活動を導入するとともに、危険度の高い作業には共同企業体監督職員が直接監督する。⑥地元町会・自治会への連絡体制を確認し連絡を速やかに行う。以上6項目を追加し安全対策の強化を図ることと聞いております。

公園・葛西用水護岸工事整備事業について

Q 稲荷伊草第二土地区画整理事業は、開始以来25年目

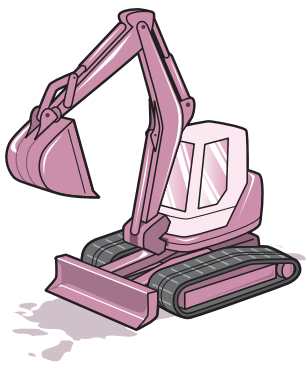
に入り道路築造や家屋移転などは終了、後は既設道路の側溝の維持工事や葛西用水の護岸整備を残すのみとなっています。仮称伊草東児童公園及び葛西用水の護岸工事の予算及び時期は。

豊田 吉雄

に配慮した護岸整備を検討します。公園や護岸の整備時期については、土地区画整理事業の換地処分時期との関連があることから、適正な時期に実施していきたいと考えています。

A 公園整備は、公園管理者

として休憩施設や遊具等地域住民の意見を伺いながら整備内容を決定し、予算化していきたいと考えます。葛西用水護岸整備については草加市側から連続する桜並木があり、貴重な地域資源となっているため、景観



潮止中学校校隣地マンション建設について

Q 潮止中学校隣地でマンション建設がはじまりました。潮止中に与える影響及び対応についてお聞きします。

鹿野 泰司

A 同マンション建設にあたり①搬入車両の通行による生徒の交通安全問題②工事騒音や振動③トイレやプール、教室等のプライバシーの問題等が考えられます。教育委員会では、マンション建設にともなう事前協議において生徒の交通安全や健全な学校環境の維持について建築主に強く要望してきました。

その結果、①、②については協力をいただけることになっております。③については、トイレについては窓ガラスに不透明シールを貼ることになっております。プール・教室への対策についてははまだ講じられていませんが、引き続き建築主に協力要請をしていきます。

光害条例について

Q エネルギー対策も含め地球環境の問題ともいえ、生活環境の観点から、光害を防止

すべきとの声も、最近多く聞かれます。国は、こうした状況に対応するため、1998年に光害対策ガイドラインを策定するなどして、自治体の取り組みを支援しているところであります。本市において、今後この条例について制定のお考えはありますか。

吉田 準一

A 平成17年につくばエクスプレスが開業し、開発が進む八潮駅周辺、或いは既存の商店街などにおいて、夜間照明に

よる光害に対する苦情が、今後寄せられることも考えられます。今後、光害についての要望・苦情等については、近隣市町の事例等を参考に対応を図るとともに、条例制定については、国のガイドライン等について調査・研究するとともに、検討して参りたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

地域活性化策と今後の課題について

Q 2007年問題といわれている団塊世代の方達の生活・職業について、又、団塊世代活動支援センターの活用方法と支援策についてお伺いします。

瀬戸 知英子

A 本市には団塊の世代と呼ばれる方が約8千人住んでおり、この方々が今年から退職期を迎えております。2007年問題は、今後大量の団塊世代が定年者となるほか、人口減少、超高齢社会が進展し、生産年齢人口の減少が見込まれる中で、社会の活力を維持していく為にも、中高年世代の方々が有するパワーを地域で発揮し

ていただくことが必要であると考えております。団塊世代の方々の中には現在の勤務先以外での再就職、ボランティア活動への参加や起業等を希望される方が多くいるといわれています。本市では、現時点では団塊世代活動センターを独自に設置する予定はありませんが、県の同センターの情報を積極的に提供するようパンフレットを情報資料コーナーや各施設に配置してまいりますと考えております。

中高生を対象とした大型児童館設置について

Q 近年、中高生を取り巻く環境が劣悪となってきており、学校・家庭以外の居場所がなく、地域の公共施設の多くは一般成人向けで使いづらく、また、公園などで集まっていると

変な目で見られるなど、地域の中に居場所がないのが現実です。そこで、中高生・青少年らが自ら企画運営できる場所があれば、不登校やいじめがなくなり、非行や犯罪も少なくなると考えます。その場所として勤労青少年ホーム「ゆまにて」に中高生を対象とした大型児童館を創設してはと思いますが、その

柳澤 功一

考えについて。

A 中高生を対象とした居場所づくりとしての大型児童館と公共施設については、中高生の健全育成にとって大事なことは仲間づくりや情報交換の機会であり、安心して活動や交流ができる場所があれば不登校やいじめがなくなり非行や犯罪の予防になるものと思われま